

## 貯蓄の状況

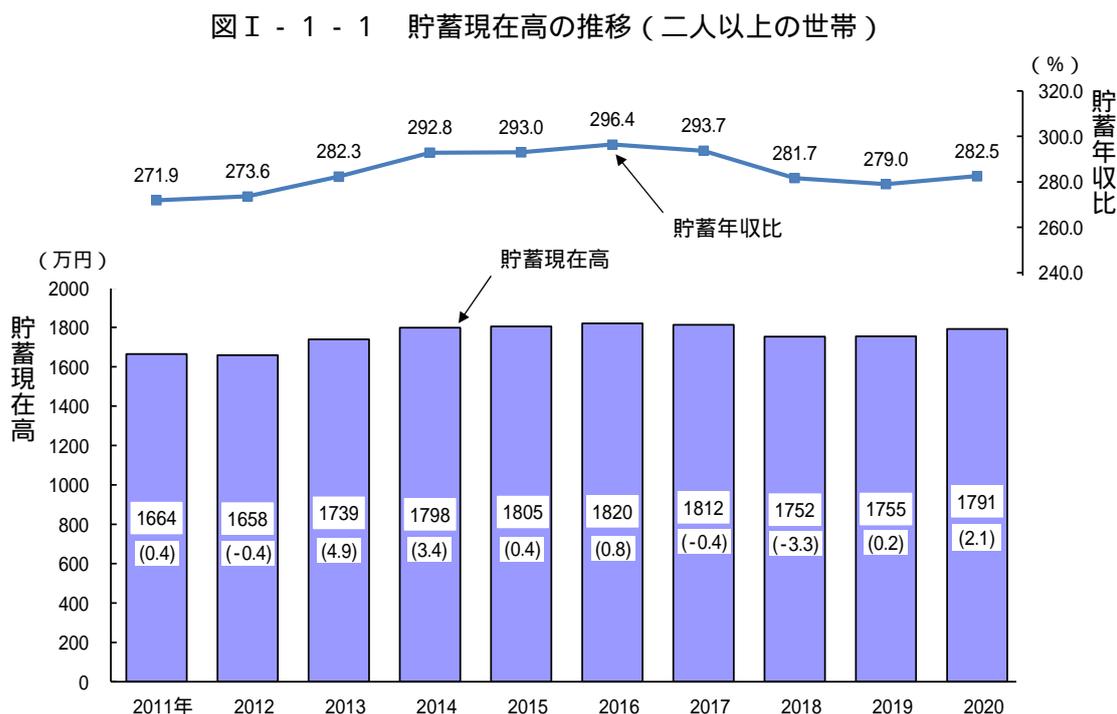
### 1 概況

#### (1) 貯蓄現在高は1791万円で2年連続の増加

二人以上の世帯における2020年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）<sup>1</sup>は1791万円で、前年に比べ36万円、2.1%の増加となり、2年連続の増加となっている。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は1061万円（前年1033万円）となっている。また、年間収入は634万円で、前年に比べ5万円、0.8%の増加となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は282.5%で、前年に比べ3.5ポイントの上昇となっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図I-1-1、表I-1-1）



注)( )内は、対前年増減率(%)

表I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 <sup>2</sup> (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2011年	1664	612	0.4	-0.6	271.9	991
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0	1054
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7	1036
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0	1033
2020	1791	634	2.1	0.8	282.5	1061 (1016)

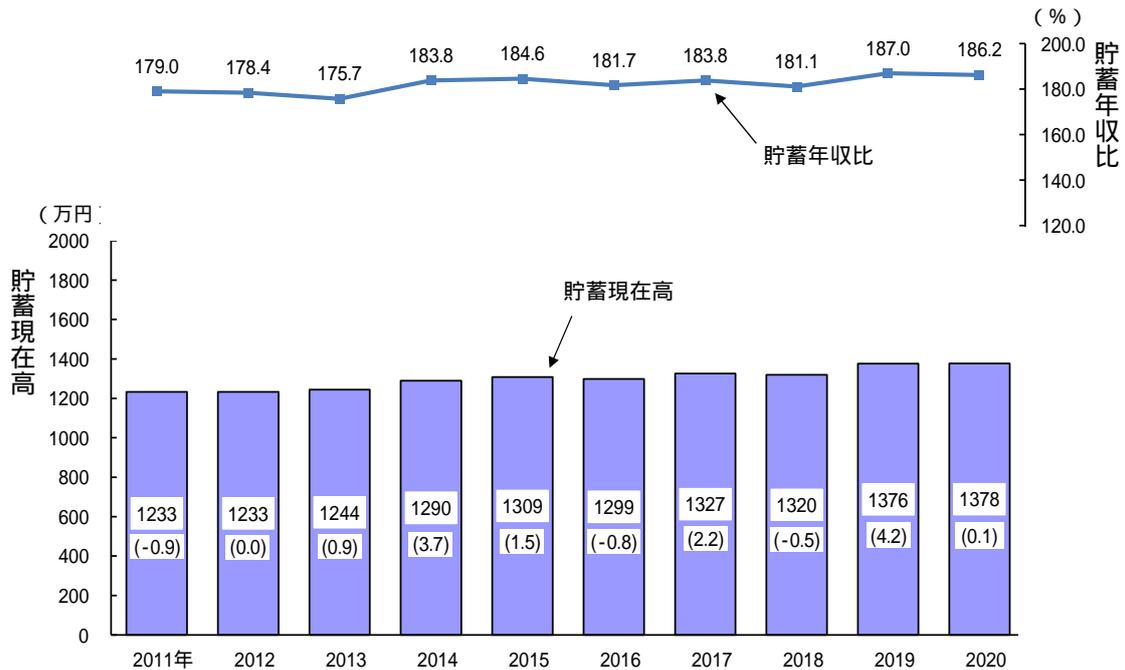
2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。  
( )内は、2020年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値（参考値）

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合54.4%）についてみると、貯蓄現在高（平均値）<sup>1</sup>は1378万円で、前年に比べ2万円，0.1%の増加となり、貯蓄保有世帯の中央値は826万円（前年801万円）となっている。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、貯蓄保有世帯の中央値共に低くなっている。また、年間収入は740万円で、前年に比べ4万円，0.5%の増加となり、貯蓄年収比は186.2%で、前年に比べ0.8ポイントの低下となっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図I-1-2，表I-1-2）

図I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) ( ) 内は、対前年増減率 (%)

表I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 <sup>2</sup> (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2011年	1233	689	-0.9	-1.1	179.0	729
2012年	1233	691	0.0	0.3	178.4	757
2013年	1244	708	0.9	2.5	175.7	735
2014年	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741
2015年	1309	709	1.5	1.0	184.6	761
2016年	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017年	1327	722	2.2	1.0	183.8	792
2018年	1320	729	-0.5	1.0	181.1	798
2019年	1376	736	4.2	1.0	187.0	801
2020年	1378	740	0.1	0.5	186.2	826 (782)

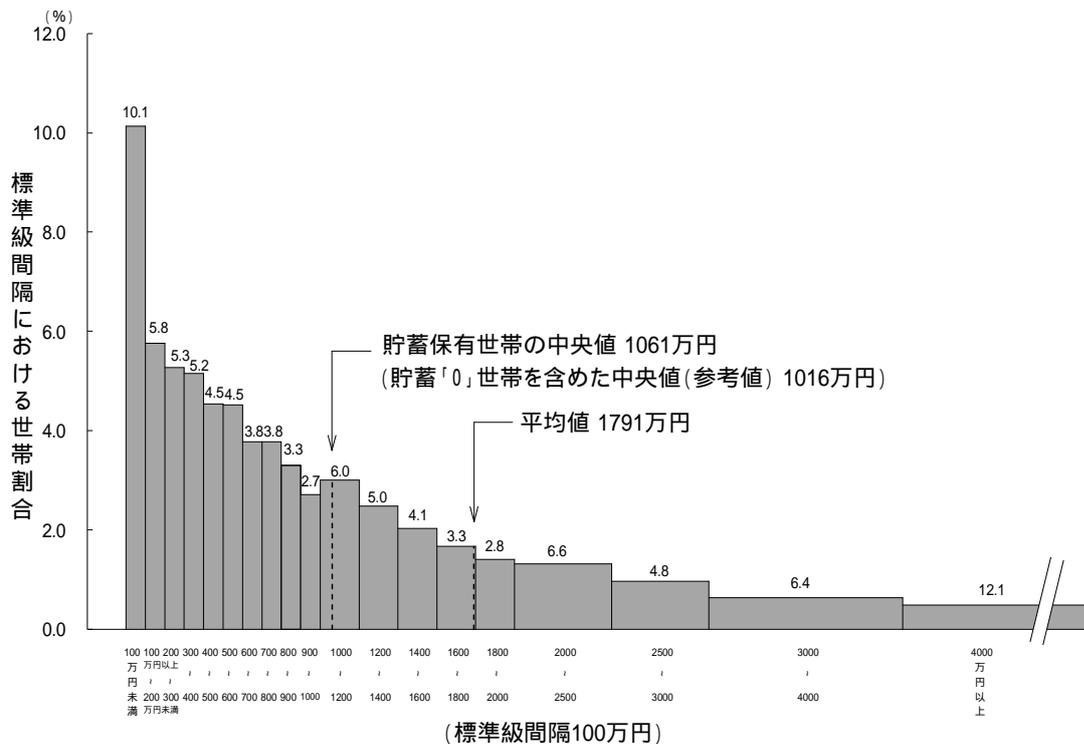
2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。( )内は、2020年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値（参考値）

(2) 貯蓄現在高が平均値（1791万円）を下回る世帯が約3分の2を占める

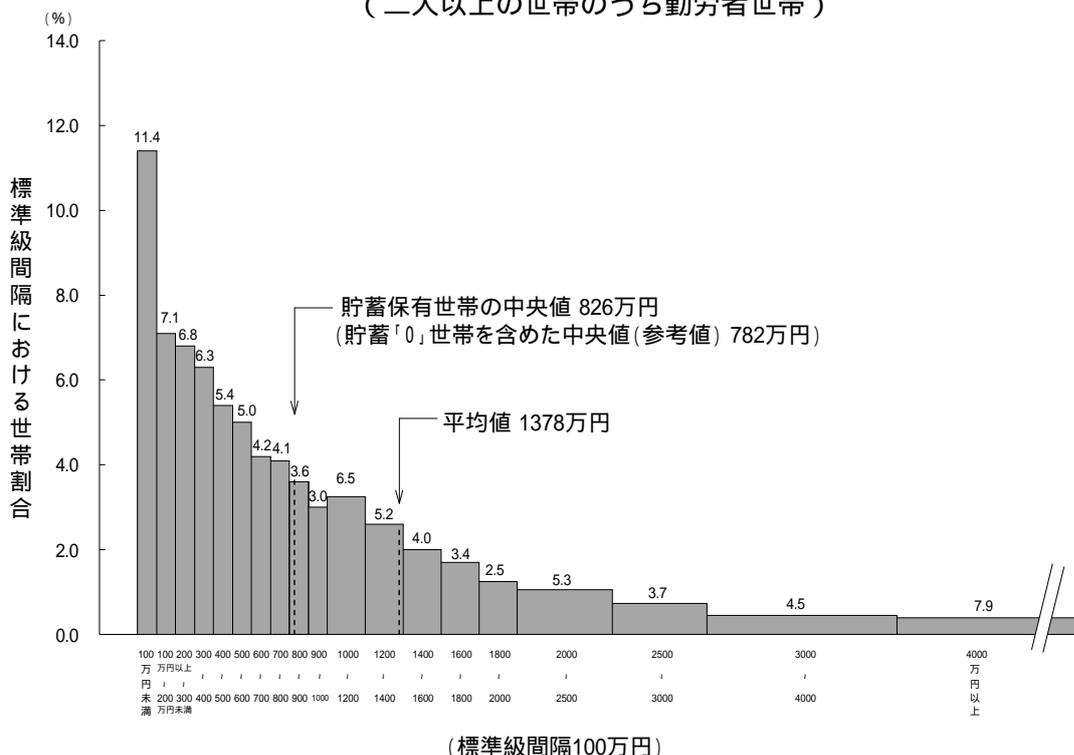
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1791万円）を下回る世帯が67.2%（前年67.9%）と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の低い階級に偏った分布となっている。

(図I-1-3)

図I-1-3 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 2020年 -  
(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) 標準級間隔100万円(貯蓄現在高1000万円未満)の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

## 2 貯蓄の種類別内訳

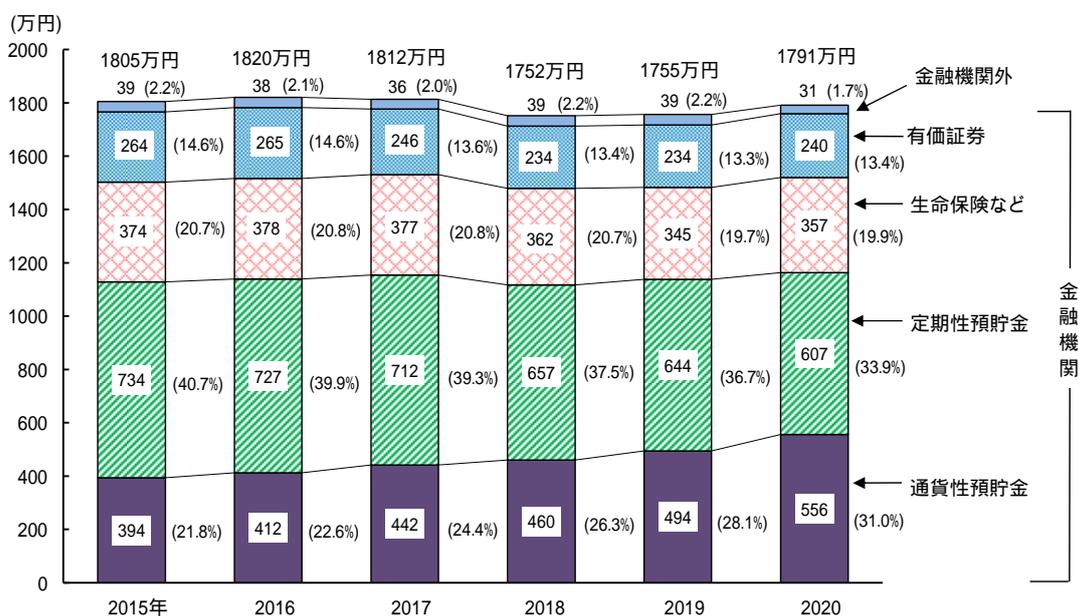
通貨性預貯金は12年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が607万円（貯蓄現在高に占める割合33.9%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が556万円（同31.0%）、「生命保険など」が357万円（同19.9%）、有価証券が240万円（同13.4%）、金融機関外が31万円（同1.7%）となっている。

2019年と比べると、通貨性預貯金は、前年に比べ62万円、12.6%の増加となり、12年連続の増加となっている。一方で、定期性預貯金は、前年に比べ37万円、5.7%の減少となり、6年連続の減少となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）

図I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

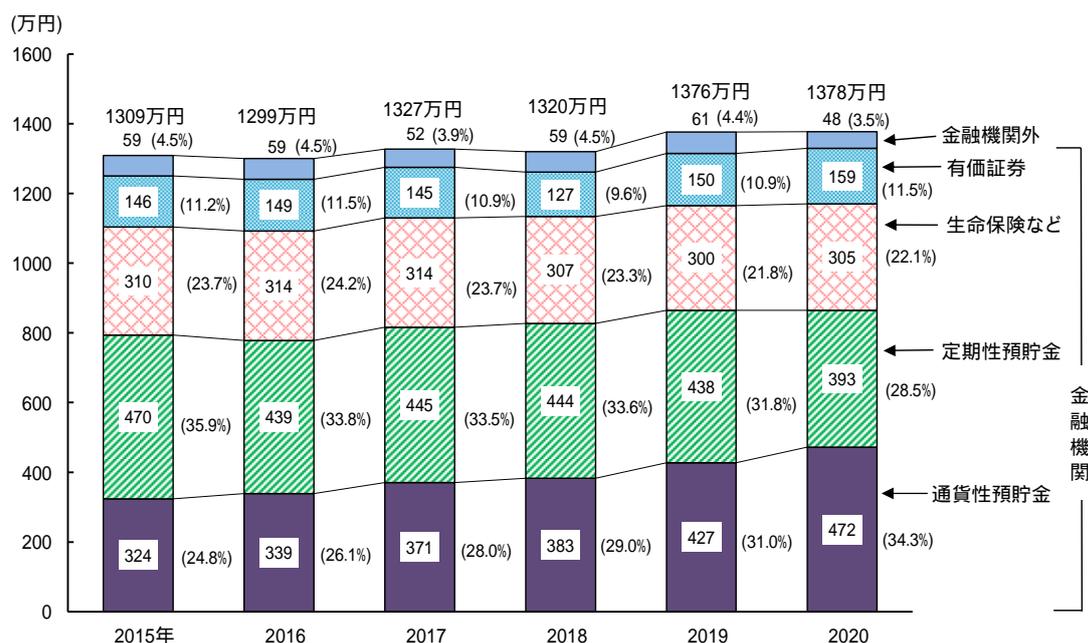
年次	貯蓄現在高	金融機関								金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	株式・株式投資信託	貸付信託・金銭信託	債券・公社債投資信託	金融機関外	
金額 (万円)										
2015年	1805	1765	394	734	374	264	192	13	59	39
2016年	1820	1782	412	727	378	265	197	17	51	38
2017年	1812	1777	442	712	377	246	188	13	45	36
2018年	1752	1712	460	657	362	234	178	11	45	39
2019年	1755	1716	494	644	345	234	179	12	42	39
2020年	1791	1761	556	607	357	240	199	8	33	31
構成比 (%)										
2015年	100.0	97.8	21.8	40.7	20.7	14.6	10.6	0.7	3.3	2.2
2016年	100.0	97.9	22.6	39.9	20.8	14.6	10.8	0.9	2.8	2.1
2017年	100.0	98.1	24.4	39.3	20.8	13.6	10.4	0.7	2.5	2.0
2018年	100.0	97.7	26.3	37.5	20.7	13.4	10.2	0.6	2.6	2.2
2019年	100.0	97.8	28.1	36.7	19.7	13.3	10.2	0.7	2.4	2.2
2020年	100.0	98.3	31.0	33.9	19.9	13.4	11.1	0.4	1.8	1.7
対前年増減率 (%)										
2016年	0.8	1.0	4.6	-1.0	1.1	0.4	2.6	30.8	-13.6	-2.6
2017年	-0.4	-0.3	7.3	-2.1	-0.3	-7.2	-4.6	-23.5	-11.8	-5.3
2018年	-3.3	-3.7	4.1	-7.7	-4.0	-4.9	-5.3	-15.4	0.0	8.3
2019年	0.2	0.2	7.4	-2.0	-4.7	0.0	0.6	9.1	-6.7	0.0
2020年	2.1	2.6	12.6	-5.7	3.5	2.6	11.2	-33.3	-21.4	-20.5

このうち勤労者世帯についてみると、通貨性預貯金が472万円（貯蓄現在高に占める割合34.3%）と最も多く、次いで定期性預貯金が393万円（同28.5%）、「生命保険など」が305万円（同22.1%）、有価証券が159万円（同11.5%）、金融機関外が48万円（同3.5%）となっている。

2019年と比べると、通貨性預貯金、「生命保険など」及び有価証券は増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ45万円、10.5%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。一方で、定期性預貯金及び金融機関外は減少となっている。定期性預貯金は、前年に比べ45万円、10.3%の減少となり、3年連続の減少となっている。

（図I-2-2，表I-2-2）

図I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関								金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	株式・株式投資信託	貸付信託・金銭信託	債券・公社債投資信託		
金額 (万円)										
2015年	1309	1250	324	470	310	146	113	7	26	59
2016年	1299	1241	339	439	314	149	115	12	22	59
2017年	1327	1274	371	445	314	145	112	9	24	52
2018年	1320	1260	383	444	307	127	98	4	25	59
2019年	1376	1316	427	438	300	150	119	7	24	61
2020年	1378	1330	472	393	305	159	134	6	20	48
構成比 (%)										
2015年	100.0	95.5	24.8	35.9	23.7	11.2	8.6	0.5	2.0	4.5
2016年	100.0	95.5	26.1	33.8	24.2	11.5	8.9	0.9	1.7	4.5
2017年	100.0	96.0	28.0	33.5	23.7	10.9	8.4	0.7	1.8	3.9
2018年	100.0	95.5	29.0	33.6	23.3	9.6	7.4	0.3	1.9	4.5
2019年	100.0	95.6	31.0	31.8	21.8	10.9	8.6	0.5	1.7	4.4
2020年	100.0	96.5	34.3	28.5	22.1	11.5	9.7	0.4	1.5	3.5
対前年増減率 (%)										
2016年	-0.8	-0.7	4.6	-6.6	1.3	2.1	1.8	71.4	-15.4	0.0
2017年	2.2	2.7	9.4	1.4	0.0	-2.7	-2.6	-25.0	9.1	-11.9
2018年	-0.5	-1.1	3.2	-0.2	-2.2	-12.4	-12.5	-55.6	4.2	13.5
2019年	4.2	4.4	11.5	-1.4	-2.3	18.1	21.4	75.0	-4.0	3.4
2020年	0.1	1.1	10.5	-10.3	1.7	6.0	12.6	-14.3	-16.7	-21.3